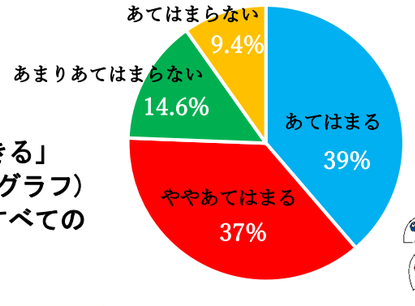
学力向上対策室だより

～　AIドリル　アンケート結果発表　～

R7
11月

7月9日～7月18日の期間に学校を通じて実施しましたAIドリル「navima」に関する保護者アンケートにご協力いただきありがとうございました。合計423人の方からご回答をいただきました。今回は、1学期に実施したアンケートの結果を基に、利用状況や課題を整理し、今後の取組についてお伝えします。

1.児童/生徒の現状



（小学校）76%の児童が「自分のペースで学習できる」という肯定的な回答をしました。（右円グラフ）
（中学校）４月～７月の期間における利用率は、すべての学校で毎月向上していました。

2.保護者の方からのご意見より

【課題点や要望】
- 操作性の問題：フリーズする、反応が悪い、漢字が正解にならない。
- 学習意欲の低下：問題が単調、ご褒美制度が不十分、競争要素が欲しい
- 家庭学習への影響：視力低下が心配、タブレット依存の懸念、紙の宿題の方が良い
- ほしい機能：子どもが取り組んだ問題（数）が通知される

市内小中学校では、取組週間の設定や表彰などを行うことで、子どもの意欲を向上させ、活用の定着へつなげている学校もあります。これらの取組を共有し、学習意欲の向上を図りたいと思います。また、健康面への影響の懸念もあります。学校のみならず、ご家庭でも利用時間や端末との距離など、気を付けて見てあげてください。操作性に関する問題については、引き続き開発業者に改善を要望いたします。

- 小学校では、AIドリルの使い方が定着してきた児童が増えているね。
- 中学校でも、学校全体の取組として、朝学習や授業中の復習での活用が広がっているので、その成果かもしれないね。
- 漢字の読み取りについては、令和７年２月号も参考にしてね。

漢字の認識機能について

漢字の書き取り認識については、各学校で「易しい」「普通」「厳しい」の設定ができます。ただし、「易しい」の設定でも、書き順が間違っていると正解にはなりません（右図参照）。
「易しい」設定では、漢字のとめ、はね、はらい、かたちが多少正確でなくても○になります。とはいえ、文字の学習は実際に書くことも大切です。学校では、ノートに書く指導も大切にしています。紙と電子をバランスよく使いながら、学習の定着を図っていきましょう。特に低学年のうちは大人がきっちり見てあげて、正しく書く習慣を身に着けるようにしましょう。

「漢字の読み取り」については、
令和７年２月号に！！
こちらのQRコードから

3.各学校でのAIドリルの取り組みを一部紹介

- 児童会の取組で、強化週間や表彰を行っている学校があります。
- 漢字検定の勉強として、AIドリルを使い、学年全体で取り組んでいる学校があります。
- 毎週〇曜日など、朝学習でAIドリルを活用して学校があります。
- 数学の時間に、最初の５分間にAIドリルを使って小学校の復習問題をしたり、苦手なところの対策に使ったりしている学校があります。
- 理科の時間に、実力テストの対策（入試に向けての復習）として、AIドリルを活用して取り組んでいる学校があります。

※写真は、市内小学校における授業中のAIドリルの活用風景です。

泉南市では、子どもたちが、自分が学習したいときに学習したい内容を選んで学習できるようAIドリルを導入しています。学習用タブレット（iPad）を使って学習しているため、お子様の学習の様子が紙の教材に比べて把握しにくいかもしれませんが、お子様がAIドリルに取り組んでいる際には、ぜひ、お子様にどんな問題に取り組んでいるのか、難しい問題に挑戦しているかなどを聞いてみてください。

泉南市教育委員会　教育部　学力向上対策室
〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代374-4
TEL：072（483）3673

花笑み sennan